

特集 1 : 性感染症流行の現状をめぐって

【巻頭言】

足立 昭 夫 (徳島大学医学部ウイルス学講座)
馬 原 文 彦 (徳島県医師会)

近年の性行為の多様化に伴い、従来の性病に加えて、粘膜あるいは皮膚の性的接触によって感染する種々の疾患を広く性感染症 (Sexually Transmitted Disease ; STD) と呼ぶようになった。従来用いられていた性病という言葉は、梅毒、淋病、軟性下疳、鼠径リンパ肉芽腫を対象としたものであるが、性感染症にはこのほか、非淋菌性尿道炎、性器ヘルペス、膣カンジダ症、トリコモナス症、クラミジア感染症、尖圭コンジローム、ウイルス性肝炎、伝染性単核症、サイトメガロウイルス感染症、後天性免疫不全症候群 (エイズ)、成人 T 細胞白血病 (ATL) など広範な疾病群が含まれる。これらの性感染症は、平成11年4月1日に施行された「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」(感染症新法) では四類に分類され、「国が発生動向調査を行ない、その結果等に基づいて必要な情報を一般国民や医療関係者に提供・公開していくことによって、発生・拡大を防止すべき感染症」とされている。性感染症はこのようにこの「感染症新法」において医学的危険性が高いと認定され社会的課題とされている。

性感染症は社会の将来を担うべき若い年齢層に多発し、また、性活動にリンクしているためにその克服が極めて困難である。したがって、その予防・治療対策は国や地域に関わらず緊急にして重要な課題である。第223回徳島医学会学術集会 (平成13年度夏期) では「性感染症流行の現状をめぐって」が学術テーマの一つとして

取り上げられ、シンポジウム形式でセッションが行なわれた。このセッションでは (1) 抗 HIV 療法の現状 (2) 徳島県における性感染症 (STD) の現状 : STD センチネル・サーベイランス調査報告、および (3) 青少年の性感染症に対する意識、の三題の講演が行なわれた。(1) はグローバルな性感染症であり、現在もアジア・アフリカ地域で爆発的な流行が発生しているエイズの治療法、特に、HAART と呼ばれる多剤併用療法について (2) は全国調査との比較解析を含めた、徳島県の性感染症の実態に関する膨大なデータ (1999-2000年) の解析結果 (3) は多数の若年層、小・中・高校教諭、および父兄のアンケートによる性感染症に対する意識調査を比較分析した結果、を中心に報告された。報告後、性感染症の実態把握、教育、予防、治療等に関してフロア発言を含めて活発な議論が展開され、今後の課題についての総括がなされた。討論により、多様な性感染症克服には、家庭、地域社会、医療機関がそれぞれ正確に現状を認識し、緊密かつ有機的な協力関係を構築することが肝要であり、特に若年層に対する啓蒙活動の必要性がよりいっそう痛感された。性感染症に関する医学的知識の欠落あるいは不足が問題点として浮かび上がり、本シンポジウム企画は大成功であった。

シンポジウム講演の詳細は本号の演者による総説を参照されたい。